

理工学研究科大学院生が第 23 回化学工学に関する国際シンポジウムで学生賞 (Gold Award) を受賞

12月4日、九州産業大学（福岡市）で開催された第23回化学工学に関する国際シンポジウムの口頭発表のスペシャルセッションにおいて、理工学研究科化学生命・化学工学専攻化学工学コース1年 梅尾清志郎さんが学生賞を受賞しました。

このシンポジウムは、社団法人化学工学会、化学工学会九州支部、韓国化学工学会大田/忠南支部などの共催で、アジアの学生の交流を主目的として毎年開催しているものです。今回は、日本、韓国、タイ、台湾、マレーシア、ベトナム、インドネシアから268件の発表（口頭発表129件、ポスター発表139件）がありました。

梅尾さんは、"Investigation of catalytic cracking reaction in very short contact time for kinetic interpretation"と題し、ガソリンを製造する流動接触分解（FCC）プロセスの複雑な反応メカニズムを反応工学的に解体する手法を提案する研究の口頭発表を行いました。炭素数の異なるパラフィンとオレフィンモデル原料油として、極微小接触時間を含む広範な接触時間で接触分解反応の総括反応速度定数を実験的に求め、これをさらに詳細に解析することによって高オクタン価と高ガソリン収率を同時に実現する反応モデルの構築につながる可能性を示しました。

英語での発表ならびに質疑に対する応答も適切に行えたため、その発表が高い評価を受けて学生賞（Gold Award）を受賞しました。

